

## 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	東京工業大学	整理番号	G01
プログラム名称	グローバルリーダー教育院		
プログラム責任者	丸山 俊夫	プログラム コーディネーター	佐藤 勲
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初計画の実現へ向けて努力を続けている様子は見て取れるものの、中間評価時の留意事項への対応は具体的成果が見えず、いまだ十分なものとはいえない。優秀な学生は育てているものの、当初の目標を再検討し、実施体制の抜本的改善を期待したい。</li> <li>・本プログラムは一橋大学との連携による文理融合の学位プログラムを通して人材養成を図るものであるが、一橋大学教員の寄与は限定的に留まっており、また、一橋大学の大学院生も正規年限のフル参加をしている学生は、第1期生から6期生合計で5名しかおらず、直近の第5期生・6期生では共にゼロである。こうした状況に対して、TA雇用やボランティアでの学生参加を募るなどの努力はしているが、いまだに有効な手立てが講じられていない状況にある。また、一橋大学の教員参加が限定的であることから、文理統合型の学位プログラムの構築に向けて本プログラムが最終的にどのような学位プログラムを確立して残すのかが明確には見えてこない。このように、依然として取組に遅れが見られることから、計画縮小を含めて抜本的な見直しを早急に行うことが必要である。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一橋大学との連携強化の必要性についてはこれまでも指摘してきたが、目に見える改善策がとられていない。支援期間終了までの残りの2年半の期間、一橋大学の教員に一層の協力を求めることにより「道場」教育を充実させ、文理融合教育の実をあげることが不可欠である。</li> <li>・本プログラムの中核を成す人文社会系道場について、東京工業大学出身者2名を特任雇用して任せており、個々の道場の内容についてはグループワークや国内・海外エクスカーション、修了プロジェクトなどで切磋琢磨し、実践的な力をつけるものとなっており、一定の評価をすることができる。しかし、本プログラム全体として体系的にどのような教育を行うのかについて、学生の理解が十分には得られていない部分がある。また、直近においてフル参加の学生が一橋大学から入学していないことから、当初計画を変更して東京工業大学の学生に特化した見直しが求められる。具体的には、東京工業大学の学生が求める経済法や国際政治経済等の道場を設置して、一橋大学の適任者が加わることができない場合には、広く当該分野の研究者を招聘して担当させる必要がある。</li> <li>・東京工業大学の学生にとって科学技術に関する教育は各自の所属専攻で受けていることから、本プログラムにおける科学技術系道場の位置付けについて、プログラム全体の中で再検討する必要がある。</li> <li>・東京工業大学の学内スペース使用料として計上されている経費が極めて大きいことから、大学として、経費の考え方の見直しを行い、本プログラムに対する学生の経済的支援にあてるべきではないか。</li> </ul>			